



かわまた 議会だより

Main Contents 所管事務調査報告 (P6-7) / 一般質問 (P8-16) / まちれば (P17) etc...



もっと知ってほしい議会のこと
誌面でつながる町議会



町議会HPはこちら

Close UP

クローズアップ

6月議会



6月議会では何が決まったのか？



令和8年第3回議会定例会は、6月4日から10日までの7日間の会期で開催されました。

一般会計補正予算には、書かない窓口整備のための費用、電子入札システム導入のための費用などが提案され可決されました。今回の補正により一般会計予算は86億3,947万3千円（補正額1,447万3千円）となりました。

また、陳情3件が委員会に付託され、最終日には、意見書2件が議員発議により提案され、可決されました。

補正予算の主な事業

行政情報システム管理費

1,346万円

役場窓口において、マイナンバーカードを利用した書かない窓口を整備するための費用

財産管理事務費

561万円

電子入札システム導入のための費用

川俣中学校プール施設
管理運営費

192万円

川俣中学校プールの浄化槽機器交換に係る費用

6月定例会
議案の審議結果



今回の定例会で町から提案のあった議案は次の18件でした。それぞれの議案について審議が行われ、結果は記載の通りです。

議案番号	件名	審議結果
第39号	不動産の取得について	可決（全会一致）
第40号	動産の取得について	可決（全会一致）
第41号	第9分団消防屯所新築工事請負契約の締結について	可決（全会一致）
第42号	東京電力福島第一原子力発電所原子力災害に伴う令和8年度川俣町国民健康保険税等の減免の特例に関する条例	可決（全会一致）
第43号	川俣町行政手続条例の一部を改正する条例	可決（全会一致）
第44号	川俣町税条例の一部を改正する条例	可決（賛成多数）
第45号	川俣町介護保険条例の一部を改正する条例について	可決（全会一致）
第46号	専決処分の報告及びその承認について （専決第3号 令和7年度川俣町一般会計補正予算（第7号））	承認（全会一致）
第47号	専決処分の報告及びその承認について （専決第4号 令和7年度川俣町国民健康保険特別会計補正予算（第5号））	承認（全会一致）
第48号	専決処分の報告及びその承認について （専決第5号 令和7年度川俣町介護保険特別会計補正予算（第5号））	承認（全会一致）
第49号	専決処分の報告及びその承認について （専決第6号 令和7年度川俣町後期高齢者医療特別会計補正予算（第4号））	承認（全会一致）
第50号	専決処分の報告及びその承認について （専決第7号 令和7年度川俣町奨学資金特別会計補正予算（第1号））	承認（全会一致）
第51号	専決処分の報告及びその承認について （専決第8号 令和7年度川俣町工業団地造成事業特別会計補正予算（第2号））	承認（全会一致）
第52号	令和8年度川俣町一般会計補正予算（第1号）	可決（全会一致）
第53号	令和8年度川俣町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決（全会一致）
第54号	令和8年度川俣町介護保険特別会計補正予算（第1号）	可決（全会一致）
第55号	令和8年度川俣町水道事業会計補正予算（第1号）	可決（全会一致）
第56号	川俣町個人情報保護審査会委員の任命について	同意（全会一致）

議案採決表

議案	藤野 圭史	藤原 正	高橋 文雄	菅野 信一	山家 恵子	石河 ルイ	作田 善輝	蓮沼 洋志	高橋 清美	新関 善三	菅野 清一
第44号 川俣町税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×

○は賛成、×は反対

議員はどこに注目したか。

本会議での主な質疑応答

条 例

●議案第44号

川俣町税条例の一部を改正する条例

Q 復興特別所得税はいつまで延長か。また、防衛特別所得税に1%移行になるが税の意味が全く違うのではないか。(石河ルイ議員)

A 令和29年まで継続されます。目的は復興特別所得税が復興財源、防衛特別所得税は防衛力の強化と聞いています。(町民税務課長)

予 算

●議案第52号

令和8年度川俣町一般会計補正予算(第1号)

Q 書かない窓口整備の費用が計上されたが具体的内容は。(高橋清美議員)

A 窓口に機器を設置しマイナンバーカードを読み込むことで、申請書等に自動的に氏名等の情報が記載されるようになります。(町民税務課長)

【反対討論】

軍拡増税が国民に見えないようになっており、軍拡増税には反対する。
(石河ルイ議員)



陳 情 の 審 査 結 果



3件の陳情を常任委員会に付託し、審査を行いました。

受理番号	付託委員会	件 名	陳情者住所及び氏名	審査結果
6	総務産業常任委員会	地方財政の充実・強化を求める意見書提出の陳情について	福島県伊達市保原町字舟橋180 日本労働組合総連合会 福島県連合会伊達地区連合会 議長 高橋 誠一	採 択 (意見書提出)
7	厚生文教常任委員会	「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情書	福島市上浜町10-38 福島県教職員組合 中央執行委員長 酒井 和紀	採 択 (意見書提出)
8	厚生文教常任委員会	公立中学校における平和教育及び校外学習の政治的中立性と安全確保を求める陳情	福島県福島市野田町字八郎内57-8 学校教育の中立性と透明性を守る福島県民の会 提出者代表 嶋原 隆 ほか1名	不採択

議 員 提 案



次のとおり意見書を提出しました。

意 見 書 名	宛 先
地方財政の充実・強化を求める意見書	内閣総理大臣 衆議院議長 参議院議長 総務大臣 財務大臣 厚生労働大臣 国土交通大臣 デジタル大臣 内閣府特命担当大臣
「被災児童生徒就学支援等事業」の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	内閣総理大臣 総務大臣 財務大臣 文部科学大臣 復興大臣

川俣小学校児童に対する議員の不適切な活動について 町民の皆様へ心よりおわび申し上げます

令和8年6月15日(月)の朝、山家恵子議員が議員活動の一環として、川俣小学校児童の登校の見守りをしていた際、児童に声を掛け、自身のSNSに投稿するため登校の様子（児童の後ろ姿）を撮影しました。不審に思った児童が小学校の担任へ報告し、小学校から町教育委員会、警察署へ連絡が入りました。警察においては、翌朝からパトロールを強化することでしたが、その後、当日中に山家議員が一連の行動を行ったことが分かりました。

一議員の軽率な行動が、当該小学生及び保護者に多大なるご心配をおかけしましたこと、また、川俣小学校や町教育委員会、警察署等、関係機関にも多くのご迷惑をおかけしましたことに対し議会として心よりおわび申し上げます。

なお、山家議員は、今回の件を受け、関係機関への謝罪を行い、議員として研修等を1年間自粛することとなりましたのでご報告いたします。

議 会 活 動 報 告



4月

- 1日 人事異動辞令交付式（議長）
川俣町貸事業所「オリナスかわまた」開所式
子育てコミュニティセンター「マザッテ」開所式
- 2日 転入校長・教頭着任式（議長）
- 4日 町消防団分団長懇談会（議長）
- 6日 川俣町小学校入学式
山木屋中学校入学式（議長）
川俣中学校入学式
- 7日 かわまた認定こども園園式
- 9日 川俣高校入学式（議長）
- 14日 伊達郡町村議会議長会議（正副議長）
- 15日 総務産業常任委員会
議会運営委員会
全員協議会
広報編集常任委員会
- 17日 川俣町商工会青年部第62回通常部員総会（議長）
- 20日 広報編集常任委員会
- 21日 予算決算常任委員会所管事務調査（23日まで）
- 26日 花塚山探勝路3号休憩所落成式
- 28日 広報編集常任委員会

5月

- 2日 第21回川俣シャモまつり開会式
- 3日 福沢羽山山開き安全祈願祭、開会式（議長）
- 7日 P T A連絡協議会総会（副議長）
- 11日 総務産業常任委員会
- 12日 町文化団体連絡協議会総会（副議長）
- 13日 町女性団体連絡協議会総会（議長）
- 15日 議会運営委員会
全員協議会
- 16日 川俣小学校運動会

6月

- 18日 伊達地方衛生処理組合議会全員協議会、臨時会
- 19日 伊達郡町村議会議長会議（正副議長）
町商工会第65回通常総会（議長）
- 24日 第53回川俣ロードレース大会（議長）
- 25日 総務産業常任委員会
厚生文教常任委員会
交通安全母の会、婦人防火クラブ総会（議長）
- 27日 伊達地方消防組合議会全員協議会、臨時会
- 28日 町シルバー人材センター定期総会
- 29日 議会運営委員会
全員協議会
町自治会連絡協議会総会（議長）
- 1日 山木屋地区防災まちづくり拠点施設開所式
建設同業会（議長）
- 3日 町行政区長協議会総会（議長）
川俣地区防犯協会連合会理事会、定期総会（議長）
- 9日 川俣醸会初仕込み酒お披露目会（議長）
- 11日 黒澤敏雄氏叙勲伝達式（議長）
- 17日 自衛隊川俣町家族会懇親会
- 18日 川俣地区安全運転管理者協会定期総会
川俣地区安全運転管理川俣地区事業主会定期総会
- 23日 広報編集常任委員会所管事務調査（25日まで）
- 27日 川俣町青少年の主張大会
- 28日 伊達市合併20周年記念式典
第77回福島県消防協会川俣支部幹部大会
- 30日 伊達郡町村議会議長会議（正副議長）

6月4日～10日は第3回議会定例会開催

◆予算決算常任委員会

－ 少年議会等について調査 －



調査日：令和8年4月21日～23日

調査場所：山形県遊佐町
岩手県紫波町

委員長：蓮沼 洋志

副委員長：菅野 信一

委員：ほか全議員

※作田 善輝（欠）



調査報告

少年議会と地域留学

山形県遊佐町

遊佐町では、平成15年から「少年議会」を実施しています。町内在住の中学生・高校生を対象に直接選挙により少年町長、少年議長などを選んでいます。選ばれなかった生徒は少年事務局長などその他の役職に就任しています。しっかりと主権者教育がされているため、町の選挙の若者の投票率は高いとのこと。学校行事等の関係上、毎年6月から11月までを活動期間として約20回の全員協議会を開催し、活動の方向性や多くの活動成果をあげています。

また、遊佐町では高校再編による遊佐高校の廃校回避に向け、地域みらい留学を導入し、令和2～8年度に延べ40人の県外留学生を受け入れています。移住定住施策と連携し、地域との交流を通じて第二の故郷としての郷土愛を育む取り組みが特徴でした。学生寮は空き家を活用し、地域住民

議会改革と地域再生

岩手県紫波町



とのつながりのある環境が整えられていました。



紫波町議会では、予算決算常任委員会の際に、2つの分科会に分かれて論点を協議（議員間討論）する時間を日程に組み入れて実施しており、各委員は議員間討論による情報共有や意見の違いを見出しながら討論を繰り返す、方向性を探る作業を行っています。この取り組みは、「議論の府」である紫波町議会を作り上げるという議長の思いを感じました。

紫波町のオガールプロジェクトは、駅前の未利用地を民間主導の公民連携により再生し、公共施設と民間開発の両立を図った取り組みです。1年で100回以上の住民説明会を実施し、職員自ら計画策定にかかわりながら事業を推進しました。現在は公共施設や商業施設、住宅などが集積する複合エリアとなっており、地域資源の価値向上と持続可能なまちづくりの重要性を学びました。

その他、中学生議会に関する取組等、大変参考になりました。

調査日：令和8年6月23日～25日
調査場所：兵庫県太子町
兵庫県市川町

委員長：菅野 清一
副委員長：山家 恵子（欠）
委員：藤野 圭史、菅野 信一
藤原 正、高橋 道也



◆ 広報編集常任委員会

－ 議会広報の編集等について調査 －



所 管 事 務

親しまれる広報紙
兵庫県太子町
兵庫県議会議員会
第46回広報コンクール
(令和7年度)
努力賞受賞議会

太子町議会だよりは、住民にとって読みやすく親しみやすい紙面づくりを目指し、企画から編集まで委員が主体となって取り組んでいます。一方で、これまで委員の負担が大きかったことから、今後は委員以外の議員も原稿作成などに携わり、全議員で役割を分担する体制の構築を課題としていました。

また、議員や住民を紙面に積極的に登場させるほか、広報コンクール受賞紙を参考に、特集記事やデザインを取り入れ、魅力ある広報紙づくりを進めています。本町においても、全議員が関わる広報体制の構築や、住民に親しまれる議会広報紙づくりを進める上で、大変参考となる研修でした。



伝わる広報紙
兵庫県市川町
全国町村議会
第40回広報コンクール
(令和7年度)
優良賞受賞議会

市川町議会だよりは、「手に取ってもらえる広報紙づくり」を目指し、作成、編集を行っています。編集にあたっては、まず優先順位をつけることを重視し、「町村議会広報全国コンクール審査方針」を基



準として、住民の立場に立った紙面づくりを心掛けています。掲載内容についても、すべての情報を掲載するのではなく、住民の関心が高い議案等を優先的に取り上げるなどの工夫がなされていました。

また、「伝わる広報紙」を目指し、特集やインタビューなど住民参加型の企画を掲載するほか、文字量を抑え、テーマごとに色分けするなど、視覚的にも分かりやすい紙面づくりに取り組んでおり、本町においても大変参考になる研修でした。

地域みらい留学生の寮について問う

答 旧グループホームを改築して整備する



▲動画はこちら

問 川俣高校では団地を高額な費用をかけて寮にしたり、今年はアパートを借り上げたりと、一貫性のない事をしてるが、町の見解は。

答 令和7年度3名、8年度6名が想定見込み数より多く川俣町へ入学した。町では、宮町地内にあった旧グループホームを改築し寮の整備をする。

問 川俣高校のインターンシップ制度に何社の事業所が協力して貰っているのか。

答 役場も含めて、5か所に体験、2年生の生徒がインターンシップで学んでいる。

本県ゴミの排出量最多、なぜ減らせないのか

問 ゴミの減量化にはキエーロの普及促進、生ゴミの水切りが有効かと思うが。

答 可燃ゴミの4割が生ゴミであり生ゴミの80%は水分であり水切りを行う事により10%の減量化が出来る。キエーロやコンポスト、生ゴミ処理器の普及のほか町ホームページや広報川俣においても広報啓発につとめる。



蓮沼 洋志 議員

今年も熱中症対策が必要かと思うが？

問 今年も5月から暑い日が続く熱中症患者が多発すると推測されるが、その対策は。

答 令和7年度に南分署管内で搬送された熱中症患者は16名でその内70%が屋外、30%が屋外で起こり70歳以上が50%という状況だった。予防対策として民生委員の方にチラシを配布して注意喚起をした。サロンクールシェア事業補助金として助成している。

又涼み所として役場庁舎各公民館郵便局や金融機関など登録している。

問 暑熱順化を取り入れた暑さに負けない体力作りが必要では。

答 運動や入浴など日常生活で無理のない範囲で汗をかく事が徐々に体温調節ができるようになる。町として体操教室やサロン等において熱中症予防対策として健康維持増進やフレイル予防等身体を動かす事の大切さの普及啓発に取り組んでいく。





石河 ルイ 議員

イラン攻撃による影響は

答 最新の状況の把握に努めて経費の計上を行う



▲動画はこちら

問 学生寮整備、旧飯坂小改修工事の進捗や事業開始の影響をどう考えているのか。

答 原油価格を始めとするエネルギーコストや原材料費の上昇等の影響により、資材の納期の遅れが懸念されている。納期を反映した適正な設計価格、工期の設定を行う。



問 中小事業者への物価高騰対策は。

答 国による施策を踏まえ、効果的な施策を検討している。

問 戦争を止めることが最大の解決ではないかと考えるが、町の考えは。

答 戦争が1日でも早く終

結し、平和な世界となること
がこれらの課題を解決する上
で望ましいと考える。

問 平和学習、憲法学習は中学校においてどのように行っているか。

答 日本国憲法の中に平和主義が定められている意義を理解することを目標として17時間程度学習する。

問 長崎広島の原水爆禁止、世界大会に中学生を派遣する事業を行う考えは。

答 検討はして参りたいと考える。

スクールのバスの安全運行について問う

問 委託会社との契約内容はどうなっているか。

答 道路交通法等の遵守や、飲酒運転の禁止、児童生徒の安全確保などを契約内容に明記し、委託会社と契約を締結している。運転手の健康状態

に応じて、医師による就労の可否等についても確認している。

問 責任の所在はどこにあるのか。

答 万が一事故が起きたときの損害賠償責任は町にある。

街中タクシーの実現を

問 自由乗降が認められるようにできないか。

答 医療機関や商業施設など、主要な施設付近の29力所を乗降場所として設定し乗り降り可能となっている。現状で自由乗降については検討していない。

問 土日の運行を実施できないか。

答 町地域公共交通会議に図り、利用者が少なかったことから廃止としている。土日運行については、難しいものと認識をしている。

食文化の継承と 町内飲食店の活性化を問う

答 役割分担を考えながら支援します



▲動画はこちら



藤野 圭史 議員

一般質問 藤野 圭史 議員

問 夜間の移動手段が十分に確保出来ない状況について、町として対策が必要ではないか。

答弁 町と事業者の役割を整理し、分担したうえで対応を進める。

問 町内飲食店等のデジタルPR支援が必要ではないか。

答弁 観光を専門とする地域おこし協力隊を委嘱し、観光協会の立場として、観光と絡めて活性化につながるように対応して行く。

**町のブランドイメージ
アップデートを**

問 時代によって変化していく町のブランドイメージについて、現状認識はどの様に行っているのか。

答弁 SNSを活用した情報発信を行っている。届きづらい情報も届きやすくなるように工夫しながら進める。

問 地域のブランディングを推進するために、町民と行政が情報共有出来ているのか。

答弁 住民に町の制度や強みなど改めて認識して頂き、住民自体が町PRする発信者になって頂ける様に進める。

問 町を紹介するホームページに翻訳機能・音声読み上げ・ふりがな機能など閲覧者に配慮した機能などを整備する事が必要ではないか。

答弁 多種多様な方に対応したホームページについて検討する。

**施設の維持管理・再編・
受益者負担は**

問 公共施設維持に今後重要な課題となつて来ると思うが、維持管理費や利用者負担等の状況は把握しているか。

答弁 基準化はしていないが、ある程度の負担率などは把握している。

問 今後、様々な施設で維持管理費が財政を圧迫する恐れがあり、将来的に過度な負担を残さない施設として行うことが重要であると考えているが今後整備が予定されている施設どの様な状況か。

答弁 学生寮は令和7年度、寮費収入90万円に対して町単独負担が100万7,652円（利用者負担8.9%）になっている。令和8年度は寮費など再検討する。また、旧飯坂小学校の利活用施設は将来的に町の財政負担にならないように検討をする。



本町農業の振興を問う

答 新規就農、担い手確保に努める



▲動画はこちら

問 新規就農者を増やすための町独自の施策はあるか。

答弁 特に町独自で推進していることはない。

問 担い手の確保には、法人の確保が鍵になると思うが、現在の認定農業者（46人）の中に、法人は何団体含まれているか。

答弁 法人の数は10法人である。

問 担い手について、法人の確保に力を入れるべきだと思うが。

答弁 ほかの自治体を参考にして、調査研究していく。

補助金要件の緩和はできないか

問 様々な新規就農者支援策があるが、使われなければ意味がない。たとえば、県外からの移住者を対象とした特定作物の補助金について、条件を緩和するという考えはないか。また、町独自の助成もできると思うが就農者を増やす、後継者を確保するという視点から検討すべきではないか。

答弁 各補助事業は県の補助事業なので、要件緩和はできない。要望があったというところで、改善を図っていけるよ

うに提示していきたい。

問 就農準備資金、営農開始資金は、対象から外れる50歳以上の新規就農者を対象とした町独自の補助を検討する価値はあると思うが。また、離農する農家に対する対策は考えているか。

答弁 高齢化によって辞め農地が荒れ放題になってしまう。その事について、県の農地バンクの推奨とか、町の耕作放棄地解消事業等により、ほかの担い手さんに多く生産して



菅野 信一 議員

もらうような支援をしている。

問 農業就業人口を確保する上では、自給的農家に対する支援が大事ではないか。自給的農家に対する支援策をどう考えるか。

答弁 自給的農家に対する支援だが、まずは販売農家の支援をしていきたいと考えている。



3月末で小児科医院が 撤退したがその対策は

答 済生会病院が火曜と金曜に対応する



▲動画はこちら

問 これらの問題に対し町医師会や伊達郡医師会との連携は。

答 昨今の医師不足の課題を共有し近隣の医師会と連携し広域的な施策を進めている。

問 今年、済生会病院にこれまでの金額を大きく超え1億2千万を補助金を出しているがその理由は何か。

答 補助金の対象が公的医療機関であることから、町内唯一の公的医療機関の済生会に支出したものである。

問 山木屋地区の国保税の免除と医療費の無料化はいつまで。

答 国保税免除は令和7年度で終了し、8年度は半額、9年度からは通常

課税となり、医療費無料化は令和10年度で終了となる。



国道114号拡幅は

問 国道114号川俣―福島間の拡幅計画はあるのか。

答 県によると川俣―福島間は改良済みであり拡幅計画はないとのこと。



菅野 清一 議員

原発事故から15年、
現状と課題は

問 除染廃棄物仮置き場の完全返還は何時になるのか。

答 環境省によると山木屋の仮置き場は6か所、ストックヤードが3か所で令和11年度に完了とのこと。

問 農地の用排水路整備事業は当初の計画では34億7千万だと聞くが現状は。

答 県によると平成26年から令和7年まで事業費45億2

000万円。水路整備の延長は63・4km、1m当たり3万6000円、8万3000円、暗渠排水は10a40万円と聞いている。

クマなどに対する
新たな有害鳥獣対策は

問 有害鳥獣、特にクマによる死亡事故など不安が多いがその対策は。

答 クマの出没には防災無線による注意喚起や看板設置、果樹樹木伐採の補助事業を実施している。

問 最近ではハンターや猟友会の高齢化もありドローンとスマホを利用した出没調査をしている自治体もあるが取り組む考えは。

答 取り組んでいる自治体を参考に調査研究をしたい。

本町の地域おこし協力隊の取組は

答 本町の課題解決の方策として有効



作田 善輝 議員



▲動画はこちら

問 本町における地域おこし協力隊の取組経過、実績を問う。

答 平成30年からこれまで19名を受入(任期3年)、7名が卒隊し4名が本町で定住・事業継続している。定住率は57・1%(福島県平均68・7%、全国70・3%)。

問 実績に対する評価、分析課題は何か。また今後の取組は。

答 協力隊の受入体制には、雇用型・個人起業型・企業研修型があり、就農や伝統産業の後継者など本町が抱える課題解決の方策として推進している。また、卒隊後本町に定住し継続した活動が出来るよう資金支援や環境整備を図り積極的な支援を行っていく。

集落支援員制度の本町の取組は

問 集落支援員制度に関する本町の姿勢を問う。

答 地方自治体から委嘱を受けて集落の維持・活性化のため、集落の巡回、状況把握、住民同士の話合いの促進など地域活動をサポートをする制度である。本町では自治会組織や社会福祉協議会と連携して地域活動を進めている。

問 地域の課題解決などに活用出来る制度の一つではないかと考えるが。

答 本町では自治会や行政区により地域調整や地域課題の把握、また住民間の相互互助の機能が図られており、現状では集落支援員の配置は考えていない。

総合戦略「地域未来戦略」を問う

問 これまでの地方創生に関する総合戦略の取組をどう評価分析するのか。

答 人口減少社会においても持続可能な活力ある地域社会の創出の方針の下で、交流

人口及び稼ぐ力アップのため拠点整備事業の取組、デジタル技術の活用による住民の利便性向上につなげた。

問 今後展開される「地域未来戦略」を本町としてどう推進していくのか。

答 経済重視の方向性が示されて、地域活力を生み出しながら持続発展させる移住定住政策、外部人材の受け入れ、民間企業との連携、付加価値の高い産業の誘致・育成などに取組む。



川俣高校の魅力化 向上について問う

答 地域みらい留学を活用し希望者を募集する



▲動画はこちら



藤原 正 議員

一般質問 藤原 正 議員

問 今年度の志願状況を踏まえ来年度の募集への取り組みはどうするか。

答 地域みらい留学を活用した対面説明会のほか、町フェンシング大会でのパンフレット配布などのPRを行っていく。加えて代表選手などを招聘するなど指導の機会を確保しながら進学者を募集していく。

問 生徒の学びの幅を広げるという観点から総合学科への改編を視野にいれてみてはどうか。

答 学科の改編については最終的に普通科1学級本校化ですすんでいる。普通科における工業と商業の二つのコースを選択できること、地域と共に学ぶことに関心を持つお子さんが昨年度も今年度も在籍している。

学生寮の整備、年内の完了はできるのか

問 学生寮の入札が9月となると日程的にかなりきついのではないかと、年度内に入寮までできるのか。

答 現在、原油価格をはじめとするエネルギーコストや原材料費の上昇など随時、必要な対応を図っていきながら、年度内完了を目指していきま

す。
地域や企業、大学との
交流や連携などは

問 地域や地元企業、大学との連携など具体的な例はあるか。

答 現在、川俣高校と近畿大学、立命館大学の二つの大学と連携して探求的学習、商品開発のPR、震災復興の継承・情報発信事業、土曜講座などの取組みを進めている。

旧飯坂小学校
活用計画のその後

問 4月に開催された住民説明会を踏まえ、今後、計画をどう進めていくのか。

答 説明会では宿泊施設や体育館の整備の内容への質問、スポーツ施設としての若い世代の利用者の受け入れの期待など好意的に受け取ったと考えている。令和10年4月の供用開始に向けて主たる目的である移住・定住の根拠となるよう事業を進めていく。

問 旧校舎の改修や周辺の環境整備に関する意見などはあったか。

答 雨漏りや県道からの入り口、避難所としての使い道など意見があった。必要性に応じて実施計画の中に盛り込んでいく。

移住・定住促進事業は

答 情報発信を積極的に実施している



▲動画はこちら

問 情報発信はどんな内容か。

答 弁 SNSを活用し、ちょうどいい田舎暮らしができる町として、認知度アップを目的とした情報発信を積極的に実施している。

問 移住・定住相談支援センターの相談件数等は。

答 弁 令和3年9月の同センターの設置当初からの累積相談件数は1,208件である。

問 地域おこし協力隊の実態は。

答 弁 令和8年度における地域おこし協力隊は9名である。令和7年までの卒隊は7名で

そのうち、卒隊後も本町に定住又は本町において事業を継続している卒隊者は4名。

公共施設の
利活用状況等は

答 弁 川俣町貸事業所「オリナスかわまた」入居社数は1社、子育てコミュニティセンター「マザッテ」は283人、銘品館シルクピアは4万3,728人、中央公民館は2万9,825人、各地区公民館は合計2万5,363人、いきいき荘は4,908人、とんやの郷行政サービスコーナーにおける住民票等の発行は166件、小売店は5万9

76人、食堂は1万2,810人、旧各小学校体育館は合計1万371人、旧富田幼稚園は多機能型事業所「サードプレイスとみよう」として、活用している。川俣町斎場の令和7年度火葬件数は269件（うち町内248件、町外21件）、旧町民プール跡地は済生会川俣病院との調整を行っている。おじまふるさと交流館は5,669人（令和7年度のみ。うち宿泊者1,750人）、羽山の森美術館は4,168人（令和7年度のみ）、川俣町体育館は3万



高橋 清美 議員

7,249人、合宿所は1,117人、うち宿泊は688人、おてひめわくわくランド9,903人（令和7年度のみ。うち保護者4,455人、子ども5,448人）である。



医療的ケア児支援を問う

答 町が把握している医療的ケア児は複数人いる



▲動画はこちら

問 医療的ケア児コーディネーターの配置についての見解は。

答 現在、町においては配置していない。しかしながら子ども家庭センターにおいて関係機関と連携をし対応を図っている。

問 県の医ケア児支援センターでの保育士、養護教諭等が受けられる研修会参加への取り組みの考えは。

答 介助員、あるいは養護教諭等の基礎知識としてそういう研修を受ける機会については教育委員会から学校に知らせしておけばと思う。

問 医ケア児コーディネーターの配置により、より重層な支援ができると思うが。

答 県の計画ではR8年度末まで全県に配置する計画状況。現状その任については主に保健師が担っている。今後、県が行う医ケア児等コーディネーター養成研修、こういったものに参加してコーディネーターの任を今後も担ってきたいと考えている。

AYA世代のがん患者に支援を

問 若者ががん支援の必要性をどのように認識されているのか。

答 ライフステージが大きく変化する年代であり、成長過程とライフイベントの中の治療、治療終了後も各年代に必要なニーズは多様で成人のがんとは異なる支援が必要。

問 AYA世代は40歳未満で介護保険制度が利用できないことによって、在宅になった場合経済的負担が大きい。若い人たちのケアを大事するということの意味で若年がん患者在宅療養制度の創設を考えていた

答 まずはニーズの把握に



山家 恵子 議員

問 アピアランスケアについて3月議会でも質問したが町の検討状況は。

答 アピアランスケア助成事業に関しては、県の助成事業をご案内している。町の検討状況は県内の市町村の事業内容の確認を行い利用状況など調査研究していく。

努め訪問看護や福祉用具のレンタルなど在宅費用の支援制度を実施している他の自治体の例を参考に今後検討する。



TOWN まちねぽ REPORT

No. 20

第20回

焙煎工房兼古民家カフェ Side Mountain

代表者：横山 隆さん

住所：川俣町字宮町47-4

営業時間：毎週金～日曜日 11時～18時

連絡先：Tel090-9842-6751



開店の きっかけは？

趣味のコーヒーを生かしたカフェを開くことが長年の夢で、移住先を探していました。令和5年4月から川俣町移住・定住相談支援センターで移住・定住事業に携わり、当時は東京から通勤。自然の豊かさや穏やかな町、人の雰囲気の魅力を感じ、昨年7月に移住。同年11月、夢だった古民家カフェをオープンしました。



コーヒーの種類や 主なメニューは？

常時7～8種類のコーヒーを用意し、お客さんとの会話を通して好みに合った一杯を提供。手作りスイーツや季節の果物、金曜日限定のランチも楽しめます。

今後の 展望は？

まずはカフェを長く続け、町の人々が気軽に集える憩いの場として親しまれるお店にしたいです。



高橋 道也 議長

取材した議員からひと言

当日は雨の降る日でしたが、店内に入るとコーヒーの香りが広がり、古民家の雰囲気と相まって、とても落ち着いた空間でした。こ

れからも交流の場として多くの人々が訪れ、末永く愛されるカフェになるよう期待しています。



Voice 町民の声

議会懇談会に参加して

西福沢 高橋 敏明さん

町 民と議会の相互理解を深める「川俣町自治会連絡協議会と議会との懇談会」が開催され、私も協議会の一員として参加をしました。

今まで接点もなく、話をしたこともない議員の皆さんとも膝を交えて語り合い、「人には添うてみよ」という格言そのものを実感でき、有意義な時間を過ごすことができました。

各地区の自治会長からは、町政に対する様々な意見や要望などがありました。

私も、議会だよりの内容などについて質問をしました。それは、議会だよりの一般質問のページが、以前は1ページに1人分のスペースだったのが半分に縮小され、内容が分かりづらくなり、質問者の思いが十分に伝わらない懸念があるのではないかと思います。

それに対して議会側からは、「そのような声も耳にするので検討します」という回答でした。

期待半分でしたが、早速5月の議会だよりに、1ページに1人分という従来の形に戻していただきました。迅速な対応に感謝をしたいと思います。

議会だよりの表紙に「誌面でつながる町議会」というタイトルがありますが、読みやすく、分かりやすい誌面づくりを期待しています。

今回の懇談会が3回目の開催ということですが、ぜひこの対話集会を継続して、町民の声を議会運営に反映していただきたいと思います。

9

月議会傍聴のご案内

9月3日(木)～17日(木)は 9月定例会を予定しています。

みなさんの傍聴をお待ちしています。
議会ホームページからライブ中継、録画配信もご覧いただけます。

飯舘村議会と 交流会を実施

5月15日、隣町である飯舘村議会と川俣町議会との交流会を実施しました。飯舘村議会とは震災前にも定期的に交流会を実施するなど関係は深く、原発事故による「東電福島第一原発事故被災市町村連絡協議会」の構成議会として、共に震災復興の道を歩んで来ました。当日は、いいたてパークゴルフ場でパークゴルフ大会を実施した後、宿泊体験館きこりにてお互いの町が抱える諸課題などについて共有し交流を深めました。



編集後記

盛夏の候、町民の皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか。地域では夏祭りや様々な行事が行われ、多くの方々の支えあいや温かな交流する姿に接するたびに、日々の暮らしの中で育まれる「つながり」の大切さを実感します。皆様のご意見やご要望の一つ一つの声には、より良い町を願う思いが込められており、その声を町政へ届けることが私たち議員の大切な役割であると、この夏、皆さんと共に汗を流していきたいと思っております。議会だよりにおいても、議会での審議内容や取り組みについてできるだけわかりやすくお伝えできるよう努めてまいります。まだまだ暑い日が続きますので、どうぞご自愛いただき健やかに過ごしてください。

山家恵子 委員

◆広報編集常任委員会

委員長 菅野清一
委員 山家恵子
委員 藤野圭史
委員 藤原正
委員 菅野信也
委員 高橋道一